

## 十八、泡沫

彩

戦う事すら出来なかった

「無理だよ、今年は」

幾度となく言われた

諦めるしか無かった

全てが無に帰した

じつと部屋に籠る。

窓から見える空が季節を知らせる

僕は見なかった。

廊下の角に夏が居た

窓から秋が覗いていた

冬が床を走り抜けた

春は来なかった。

十八は消えた。

十九が来ていた。